

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：32660

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23720146

研究課題名(和文)合衆国建国期における自然誌と文化的独立の展開：アメリカ学術協会機関誌を中心に

研究課題名(英文)Natural History and Cultural Independence in the Early US

研究代表者

佐藤 憲一 (SATO, KENICHI)

東京理科大学・理工学部・講師

研究者番号：80548355

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：18世紀の末にイギリスからの政治的独立を果たしたアメリカが、いかにして「文化的独立」を成し遂げるかという課題を抱えた。当研究は、そこでアメリカの自然をめぐる言説、つまり自然誌が決定的な役割を果たしたことを明らかにした。具体的には、建国期の自然誌は、アメリカと自然の特権的な関係を言祝ぎながら、合衆国の文化的アイデンティティを編成してゆくことを資料的・理論的に跡付けた。本研究により、いわゆる「アメリカンルネサンス」期に至って花開く、アメリカ自然誌の萌芽的なありようが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：After the political independence from Britain in the late 18th century, the US face the problem of the identity. It has no national language and culture, so they had to look for the distinct characteristics which must have been read as "American." This movement can be named as one for seeking "cultural independence" of the US and this project has given the substantial contribution in identifying the nature of the movement itself. In fact, it revealed that the discourses on natural history helped making things American more American, that is, constructing or inventing "American Identity." This knowledge will lead us to the cultural basis of the so called American Renaissance.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：自然誌 アメリカ学術協会 文化的独立 ロンドン王立協会

1. 研究開始当初の背景

建国期アメリカ合衆国の「国づくり」を支えた建国期の自然誌についての基礎的研究は、国内外を問わず質・量ともに不十分であった。たしかに、従来のアメリカ文学史は、アメリカが文化的アイデンティティを形成するにあたって「自然」が決定的な役割を果たしたことを、しばしば指摘してきた。しかし、専らその根拠とされてきたのは、ラルフ・ウォルドー・エマソンやヘンリー・デヴィッド・ソローなどといった、主に19世紀半ばの作家達のテキストであり、建国期における自然誌については、十分な研究がなされていないばかりか、その存在すらほとんど認識されていなかった。

研究開始当初において、本研究と直接的に関連する先行研究は次の通りである。本研究の概念的枠組みは、個人と自然との関係を母体として発展した民主主義が合衆国文学の「独立」をもたらしたと論じる Larzer Ziff, *Literary Democracy: The Declaration of Cultural Independence in America* に拠るところが大きい。しかし、Ziff の研究対象は「アメリカンルネサンス」期の作家に限定されているため、合衆国が企図した文化的独立を包括的に論じているとはいえない。初期アメリカ学術協会とその機関誌の歴史的展開と意義については、Edward C. Carer II, “One Grand Pursuit”: A Brief History of American Philosophical Society, および、American Philosophical Society, *Early Transactions of the American Society* がある。さらに、合衆国独立以前の環大西洋地域における自然誌の歴史的意義に関しては、Susan Scott Parrish, *American Curiosity: Cultures of Natural History in the Colonial British World* がある。

本研究は、こうした基礎的かつ実証的な研究を発展的に継承しながら、建国期合衆国における自然誌を媒介とした「文化的独立」という視点を有機的に発展させてゆくことにより、初期アメリカ文学文化研究のさらなる進展に寄与できるものと考え、構想された。

2. 研究の目的

上記の研究状況を踏まえ、本研究は、アメリカ合衆国建国期における自然誌 (natural history) のありさまと、合衆国の「文化的独立」の展開について調査研究を行うことを目的とした。18世紀の末にイギリスからの政治的独立を果たしたアメリカは、いかにして「文化的独立」を成し遂げるかという課題を抱えることになる。そこで決定的な役割を果たすのが、アメリカの自然をめぐる言説、自然誌であった。であるならば、建国期の自然誌は、アメリカと自然の特権的な関係を言祝ぎながら、合衆国の文化的アイデンティティを編成してゆくのではないか。本研究は、こ

の作業仮説を検証しつつ、いわゆる「アメリカンルネサンス」期に至って花開く、アメリカ自然誌の萌芽的なありようを明らかにしようとするものである。

3. 研究の方法

当研究は下記5つの作業を中心に行われた:

- (1) 合衆国建国期における自然誌の発掘と読解 (平成23~26年度)
- (2) 合衆国建国期におけるアメリカ学術協会の会員構成に関する調査 (平成23~26年度)
- (3) アメリカ学術協会機関誌の出版・流通プロセスの調査 (平成23~26年度)
- (4) 合衆国の「文化的独立」に関する理論的整備 (平成24~26年度)
- (5) 上記1~4に関するデータベースの整備およびWWW上での公開 (準備中)

とりわけ、(1)~(4)については、下記に示す(6)~(9)の手順を踏んで実施された。

(6) フィラデルフィアのアメリカ学術協会図書館における、建国期の協会機関誌に掲載されたアメリカの自然に関する記事の発掘・調査・分析。アメリカ学術協会の機関誌は、1966年にニューヨークの Kraus Reprint Collection 社より初版の復刻版が出版されており、これは日本国内でも容易に参照することができる。しかし、申請者が事前に同図書館で行った予備的な調査によれば、同機関誌は、同じ巻号が複数回出版されており、ページ番号が初版とそれ以降の版では異なる。また、さらに重要なのは、初版とそれ以降の版の記事の本文の間にも複数の異動が見られた、という事実である。よって、厳密な調査を期すためには、復刻盤だけでは不十分であるため、アメリカ学術協会が出版した全ての版を所蔵する上記図書館に赴き、実物調査をする必要が生じた。

(7) アメリカ学術協会図書館において、建国期の同協会機関誌に掲載された自然誌記事の基となった、同協会員からの書簡の発掘・調査・分析を行い、自然誌のありようを解明する個別の作業に着手した。その手順は次の通りである。機関誌上に掲載されたテキスト (=本文) とテキストのもとになった書簡のテキストを比較・照合し、書簡から記事になる過程で改変や削除がないか、確認する (書簡に関してはその大部分がマイクロフィルム化され、同協会の文書館に保存されて

いることを予備調査で既に確認済みである)。

削除や改変が認められた場合、その理由と効果とを解明する。その際、削除と改変がどのようにアメリカの自然の独自性を編成することに関係しているかについて考察する。また、削除や改変が認められない場合も、なぜ改変・削除が施されなかったのかという観点から、同様の考察を加える。個々の記事についてこうした分析を積み重ねてゆくことで、建国期アメリカの自然誌がどのように編成されていたかが、実証的に明らかになった。なお、個別の記事の考察にあたっては、Stepehn Shapin が A Social History of Truth において提示した、近代におけるファクト言説の特性をめぐる概念枠を発展的に継承した。

(8) 建国期のアメリカ学術協会の会員構成、とくに国外居住会員の素性について、同協会図書館に残る会員リストおよび個々の入会を承認した会議の議事録をもとに調査する。

(9) 合衆国議会図書館の Newspaper Reading Room に赴き、アメリカ学術協会機関誌の出版・流過程について、当時の書籍商の広告や同時代の書評をもとに調査し、解明する。

4. 研究成果

18 世紀の末にイギリスからの政治的独立を果たしたアメリカが、いかにして「文化的独立」を成し遂げるかという課題を抱えた。当研究は、そこでアメリカの自然をめぐる言説、つまり自然誌が決定的な役割を果たしたことを明らかにした。具体的には、建国期の自然誌は、アメリカと自然の特権的な関係を言祝ぎながら、合衆国の文化的アイデンティティを編成してゆくことを資料的・理論的に跡付けた。本研究により、いわゆる「アメリカンルネサンス」期に至って花開く、アメリカ自然誌の萌芽的なありようが明らかになった。

より具体的には、次の3点があげられる。

(1) 本研究により、「アメリカンルネサンス」期以前、とりわけ建国期における「自然」をめぐる参照枠の不在という、現在のアメリカ文学文化研究の欠落が発展的に解消された点があげられる。

(2) 建国期の自然誌の様態を解明することで、従来専ら共時的な枠組みのもとで行われてきた「アメリカンルネサンス」期の自然誌をめぐる研究に、通時的な視座を導入することにも成功した。

(3) 本研究は、アメリカ学術協会の環大西洋的なネットワークのありさまを、同時期に同様の活動を展開していたロンドン王立協会のネットワークと比較対象しながら解明したため、18 世紀末の環大西洋地域における知識人ネットワークの具体像を提示

することも可能となった。

以上を踏まえて述べるなら、本研究の意義は、南北戦争以前のアメリカ文学文化研究のみならず、初期近代科学史にも及ぶと自負している。

なお本研究は従来未検証の基礎研究であるため、研究期間中における研究成果の公表は限定的なものとなった。今後とも手元の資料の分析・総合の進捗に応じて、研究成果は積極的に公開されることになる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

Kenichi SATO, “How to Make “American Curiosities”: Transatlantic Transactions of the Royal society of London.” *Studies in Liberal Arts and Sciences*, 査読有, Tokyo University of Science, Number 47, 2015, 51-62.

〔学会発表〕(計1件)

佐藤憲一 “A New York Origin of the American Self.” 日本アメリカ文学会 第52回全国大会 2013年10月13日 明治学院大学白金キャンパス(東京都港区).

〔図書〕(計1件)

佐藤憲一 他 『人間関係から読み解く文学』 開文社、総ページ数 228 (当該ページ 121-148), 2014.

〔産業財産権〕

出願状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 憲一 (SATO Kenichi)
東京理科大学工学部・講師
研究者番号：80548355

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：